

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



実寸大  
エサ付け  
&  
オモリ  
解説付き

# サエサ パワーブック

POWER BOOK

2010

迎春



根拠を約束する餌本です

## 冬の釣果を約束するエサバイブル

# へらエサ POWER BOOK

2010



02

アウトライン  
冬から春先のへら鮒釣り

04

ウドンセットの浅ダナ釣り

09

ウドンセットのチョーチン釣り

14

バランスの底釣り

20

グルテンエサの長竿沖打ち

25

段差の底釣り

30

グルテンセットのチョーチン釣り

34

付録へらエサ裏ワザ小ワザ

## アウトライン

## 冬から春先のへら鮒釣り

四季それぞれの釣りが楽しめる。それがへら鮒釣りの楽しさである。そんなへら鮒釣りのなかで冬から春にかけての釣りは繊細さが要求される。

冬季には大体どこの池でも放流が行われるが、放流された新へらは活性もよく、両グルテンの釣りやバラケ

にグルテンといったダイナミックな釣りが楽しめる。両グルテンの釣りには「新へらグルテン」、「グルテン四季」、「わたグル」といった開きや膨らみのよいグルテンでテンポのいい釣りができる。バラグルや底釣りのくわせエサには「強力グルテン」といったエサ持ち重視のグルテンを使うことがベストである。グルテン

エサは常にフレッシュなものが良く、こまめに作るこ

とが大切である。

また、深いタナのバラケにはエサ付けの際の圧加減次第でエサ持ちを容易にコントロールできる「プログラム」をベースとしたバラケも威力を発揮する。

季節が進むと気温の低下と共に水温も低下し、へら鮒の活性も低くなる。そうになると、くわせエサにウドンを使ったセット釣りが主流となるが、釣るポイント

は、低活性下においていかに食い気のあるへら鮒を寄せるかである。

浅ダナのセット釣りでは、バラケのブレンドによってウキの動きが変わってくるもの。圧倒的な寄せパワー



に優れた「パワー・X」、バラケのコントロールが自在である「セット専用バラケ」、まとめる役目の「BBフラッシュ」や「浅ダナー本」などといったエサの特徴を生かしたブレンドをその日の

うので面白い。浅ダナのセット釣り、チヨーチンのセット釣り、いずれの釣りにしても一旦はしっかりとウキをナジませて、バラケを抜くタイミングを探ることになる。バラケを抜くタイミングはエサ付けの際の圧の掛け具合や形で調整を行なうほか、「粒戦」をブレンドにプラスすることによりウキの動きがよくなる。さらに

「粒戦」、「粒戦細粒」とペレットの粒の大きさを変えることにより気難しいへら鮎の活性に対応したい。

厳寒期になると、ほとんどのへら鮎が口を使わなくなる。日によっては、1日で数枚の釣果になることもある。この季節になると一枚一枚を大事に釣っていくことを心掛けたい。

厳寒期の釣りでは「待ち釣り」になりやすい。そうになると、くわせエサのエサ持ちが重要視される。くわせエサのウドンには「魚信」を使えばエサ持ちもよく、じっくりと待つことができ「魚信」は鍋で煮て作り絞り出して使うほか、レンジ作りで釣り場にてポンプ出して使用することにより、エサの大きさを調整できるという利点もある。

また、この時期の釣りの最終ウエポンとしては段差

の底釣りがある。この釣りも「待ち」の釣りとなるので、くわせエサがしっかりと付いていることが大切である。

バラケのブレンドでは縦バラケの配合が良く「段底」をメインとして「セット専用バラケ」、「へらスイミー」や「粒戦」といった重めの配合で底にバラケを置いてくるイメージがいいだろう。

春先になると、日によってへら鮎の活性も違ってくる。この季節は「春は底を釣れ」と言われるように、バランスの底釣りが面白い。両グルテン、バラグル、グルダンゴなど日並みに合わせてへら鮎が反応するエサを使い分けよう。グルテンエサはエサ持ち抜群の「強力グルテン」が使いやすい、膨らみや開きのあるグルテンエサとのブレンドでも効果的だ。

# ウドンセットの浅ダナ釣り

(タナ1m前後)

- 活性が高いときに有効なバラケブレンド  
プログラム200cc＋特S200cc＋  
GTS200cc＋パウダーベイト  
スーパーセット200cc＋  
粒戦50cc＋水200cc



## ● 作り方

すべての麩エサをボウルに入れ粉を均一に混ぜる。そこへ水を入れ、指を熊手状にして30回くらいかき回す。しばらく放置してできあがり。

## ● 特徴

活性が高いときは、早くバラけてしまうバラケは狙うタナより上に魚を寄せてしまうが、このブレンドはタナまではしっかり持ち、それからバラけるもの。また、タナに入ってからあまり持ってしまうと寄りが悪くなるが、タナに入ってからのはっきりとバラケだす。

## ● 使い方のコツと手直し

エサはあまりいじらず付け方を変えて状況に対処したい。ナジんでからのアタリのだし方は、大きさを調整して探る。開きすぎによるカラツンがでるときは、同水量に浸した「粒戦」を50ccずつ加え、しっとりさせながら重さを加えてウキの動きを抑えていく。逆にウキの動きが悪く、アタリをだしたいときは、活性が低いときのブレンド(6ページ)に作り変える。



## ●高活性時の釣り方

イメージは、タナに魚が寄っていて、ナジむと同時に魚がバラケに興味を示し、バラケの周りでバラけたエサを競うように吸い煽っている。そこで我慢しきれなくなった魚がウドンに食いつく、という感じですよ。

ウキの動きとしては、サワリながらナジんでいき、ナジミ切ったところで動きが少しおとなしくなり、一呼吸おいてから少しサワって、ウキが上がるかと思うと同時にツンと力強く入る。これが高活性時の理想的な動きです。

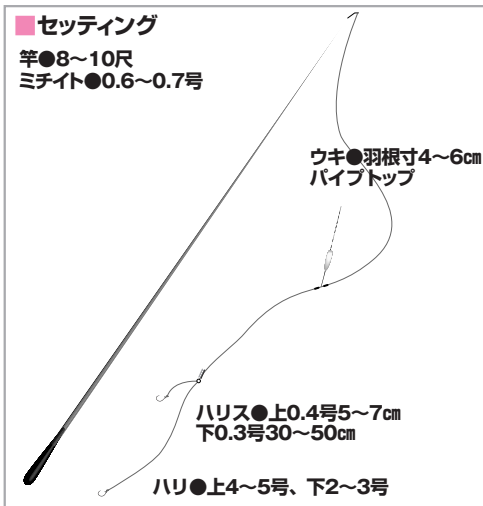
バラケエサは、ある程度競うだけの魚の寄りを保つこと（バラケ過ぎても寄るだけでくわせエサに食いついてこない。バラケが足りない）と競うだけの魚が寄らない）がポイントです。

ボソタッチは寄りは増やせるがはしゃぎの原因となり、ネバタッチははしゃぎを抑えて無駄な動きは消せますが、下ズリの原因となります。

大きさに付いては、大きいと寄りは増やせるが、くわせエサにアたるタイミングが遅くなり、小さいと寄りは保てないが、くわせエサにアタリやすくなります。

付け方は、ラフ付けはバラケ性促進の効果があり、丁寧付けはバラケ性を抑える効果があります。圧を加えるとタナに入ってからバラケが抑えられ、圧を弱くすると、バラケ始めてからバラケ切るまでが早くなります。

これらのことを踏まえ、タッチ・大きさ・付け方の組み合わせで、状況にアジャストさせていくことが大切です。



活性が良くても、仕掛けが軽くないと追わない場合と、軽いとタナが崩壊して時が作れない場合があるので、僅かな負荷の差でもウキの選択には気を配りたい。小さなバラケでないかアタらず、しかもカラツンが多いケースではウキを大きく、小さいバラケではアタリがでないが、大きいと遅くてリズムが作れないケースはウキを小さくする。また、バラケの持たせ具合をトップの太さで調整すると良いだろう。

## ●くわせエサ 魚信1分包+ 水80~90cc

※鍋で煮てポンプで搾り出して使うときは水80cc、ポンプに詰めて使うときは水90cc。

ハリ持ちが良く、重さがあるものが最適。バラケがなくなってから、くわせだけになってもサワリや食いアタリができるよう魚が興味を示す素材を選びたい。最近では「魚信」が最適と思われるが、場合によっては「特選わらび彩」が良い場合もあるので、準備は怠らないようにしたい。



## ●オモリ 実寸大

0.25mm厚  
板オモリ  
8mm×10mm~10mm×12mm

# ● 活性が低いときに有効なバラケブレンド プログラム200cc+セット専用バラ ケ200cc+スーパーダンゴ200cc+ 粒戦50cc+水200cc



## ● 作り方

すべての麩エサをボウルに入れ粉を均一に混ぜる。そこへ水を入れ、指を熊手状にして30回くらいかき回す。5分ほど放置してできあがり。

## ● 特徴

タナまで持つか持たないかの感じを意識したブレンド。活性が低いので、バラケ性が悪いとアタリがでない場合が多いが、細かくゆっくりバラけて寄せるイメージを強くし、抜けたバラケがくわせエサに降りかかるようにしている。

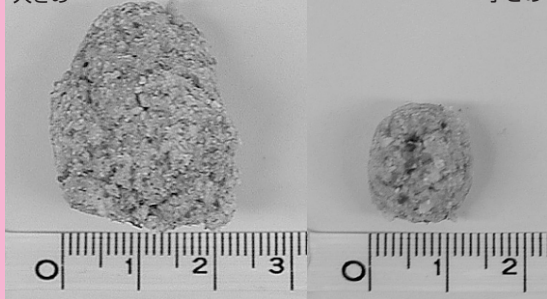
## ● 使い方のコツと手直し

作ったままのエサを摘んで使うだけでよく、大きな手直しなどは必要としない。よりバラケを促進させるため、手水をつけてエサを付ける程度の範囲で充分である。タナまで持つか持たないかのラインが重要なので、エサの大きさや付け方に気を配りたい。

## ● エサの大きさ 実寸大

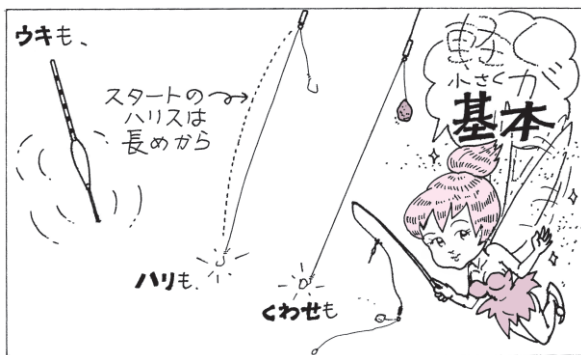
大きめ

小さめ



## ● 低活性時の釣り方

低活性のときは深いタナにジツとしている魚をバラケでタナまで上ズらせ、くわせエサに飛びつかせる釣り方が基本。ウキの動きはナジミが入るまでのサワリは弱く、ナジむと直ぐにバラケが落ち、その後少し



待って極僅かに抑えるか、チクツと黒節くらい入るアタリがでる。パターン。

バラケエサは、ヤワボンかカタブソで決まることが多く、いずれにしてもタナまで持つか持たないかくらいにバラケ性のあるエサにして、タナより下でじつとしているへら鮒をタナまで上げるイメージ。付け方は基本的にラフ付けで、くわせエサに降りかかるようにバラケの大きさを調整しよう。

セッティングのポイント  
は、できるだけ軽く小さく  
が基本だが、自分で振り込  
める範囲、エサが使いこな  
せる範囲で、ウキやハリの大  
きさを選択する。下ハリ  
スの長さは60cmから始めて、  
釣りにくいようであれば詰  
めていくが、活性が低いだ  
けにサワリなども少ないの  
で、長めが基本となる。

### ■ セッティング

竿●8~15尺  
ミチイト●0.6号

ウキ●羽根寸3~6cm  
パイフトップ

ハリス●上0.4号5cm  
下0.2~0.3号40~60cm

ハリ●上4号、下2号

ハリスはサワリやアタリを少しでもだすために長めの60cmから始めて様子を見ていく。ウキは小さいものの方がよいが、打ち込める範囲で最小のものを選べばよい。ハリもエサが抜けない前提で最小のものにする。タナは1mにこだわらず、30cmくらい深くするといいい場合があるので、臨機応変に対応したい。

## ● くわせエサ

### 感嘆10cc+水20cc

※粉と水をシェイクして安定したら10回くらい練り込んで使う。

活性の低いときのくわせエサは、軽く、小さく付けられることが必要。「感嘆」はウドンより軽く、大きさも調整できるので、食い渋りの時は効果的だ。



## ● オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ

6mm×10mm~10mm×12mm

※竿が10尺以下のときは小さめ、それ以上のときは大きめにし、無理なく振り込めるオモリ量を背負うウキを使うこと。



## ここがポイント1 Q&A

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

#### 高活性時

打ち始めからサワリがでたのに食いアタリがでないときは、まず下ハリスを伸ばしてみよう。寄り始めに1回でも食いアタリがでたのならハリスは短くないので、バラケ調整の必要があります。

サワリがあるということは、魚は寄っています。この場合はバラケ過ぎが考えられますので、バラケを付けたときにしっかりと付けてみます。さらに手もみして付けてみる、小さく付けてみる、などを試してみよう。

また、小さいくわせ



エサだと食いアタリがでないときもあるので、少しずつくわせエサを大きくすることも試してください。

#### 低活性時

活性が低いのに、バラケエサを打ち過ぎてしまうと、魚がくわせエサのほうに向かず、サワリはでも食いアタリができません。そこで、バラケエサを小さくしてシッカリとつけ、バラけた粒子がくわせエサへ向かうように調整します。それでもサワリだけで、アタリがでないときは、上のハリスを短くし、下のハリスを長くしましょう。

## ここがポイント2 Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

#### 高活性時

カラツンがでて、下ハリスを短くして解消するときは良いが、これで解消しない場合はかなり難しいです。

小さいバラケでアタっているときはウキを大きくします。小さいバラケのときは寄りを絞ってくわせエサにアタらせているので、競いが弱くなりそれでカラツンになっていると考えられます。そこでウキを大きくしてタナでの集魚を増やすと、寄りが多くなった分、競いが強くなりカラツンがなくなるわけです。

大きなバラケでカラツンのときは、寄りを多くしないとアタらない状態のときに対応してい



ますが、カラツンが減るほど競いがなくてもいえます。そこで少ない競いでもエサが自然な状態にできる小さなウキを使うと食いアタリが増えるのです。

#### 低活性時

活性が低いときは、アタリの回数すら少なく、気になるほど空振ることもないはずですが、それでも、もしカラツンができるようなら下ハリスを細くする、長くする、ハリをひと回り小さくするなど、より自然な状態に近づけ、違和感をなくすようにすることを意識してください。

# ウドンセットのチョーチン釣り

- 活性が高いときに有効なバラケブレンド  
粒戦100cc + 水200cc + プログラム  
ム400cc + ガッテン400cc + パウ  
ダーベイトヘラ200cc



## ● 作り方

「粒戦」に水を加えて軽く混ぜたら3分放置して水分を吸収させるのがポイント。そこに各エサを加え、そこから掘り起こすように、熊手状の指で20回ほどかき混ぜる。1、2分置いて全体がなじんだらできあがり。

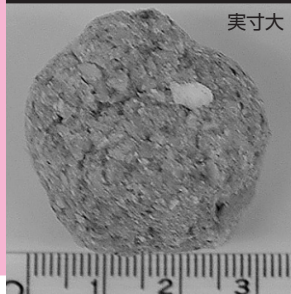
## ● 特徴

上ズリを抑えタナが安定する「粒戦」を加え、まとまりがいい「ガッテン」でタナまで持たせ、膨らむ性質がある「プログラム」で集魚。タナでサラサラとバラけ、へら鮎を寄せながら釣ることができる。まとまりがいいエサがベースなので、エサ付けの圧でナジミ幅を自在に調節できる。

## ● 使い方のコツと手直し

3分の1ほどを小分けした基エサをつまんで打ち始めはやや大きめにハリ付けし、トップをしっかりとナジませる。打ち始めは角ばらせて集魚し、サワリがつづくところで丁寧に丸く付ける。ナジミきって2、3秒こらえる程度に調節し、戻りが遅くなったら残っているエサと同量の基エサを加えてバラケ性を補う。

## ● エサの大きさ





## ●高活性時の釣り方

チヨーチン釣りではタナにへら鮒を集魚するのが基本。そのためバラケをタナ

まで持たせるためトップをしつかりなじませるのがコツ。今回ブレンドした「プログラム」はタナで膨らみ、しかも「粒戦」のペレットの粒子がタナを安定させるのでへら鮒を落ち着かせて釣ることができる。高活性時ではトップの動きが激しく、ナジむまでにアタリはでるが、それを送り深くナジんでひと呼吸おいてからのアタリを狙うとタナが安定するのでアタリが続くメリットがある。

ボソで反応が強いときは、基エサの半分に手水を付けて数回押し練りして残りの基エサを加えたネバボソタッチに調整する。まともが良いので、今までと同じ

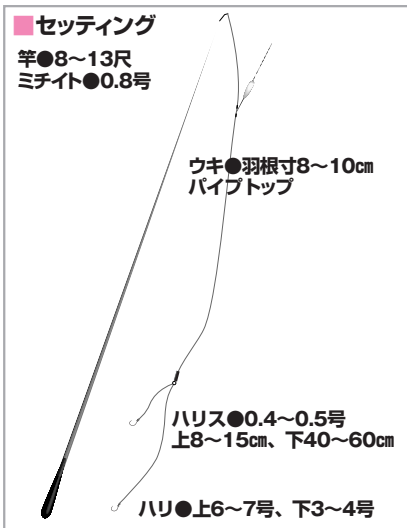
大きさにエサ付けするとトップは沈没するのでひと回り小さくしつかりハリ付けしよう。

へら鮒が上ズリ気味のときは「粒戦」100cc十水100ccで水分を吸わせたいものをひとつまみずつ加えるのも効果があるが、その分バラケの開きがよくなる。こんなときは「粒戦細粒」を加えると効果がある。

寄りが多く、フワフワとした動きが続くようなら下バリを大きくしてハリスが張るようにすると明確なアタリがでやすくなる。また、くわせエサの大きさにも気を付け、常に一定の大きさではなく、大小を使い分けてアタリの出方を見ていくことだ。日中ではどうしても渋り気味になるので、「カ玉」や「感嘆」などを用意してアタリを維持するのが釣果を伸ばすコツになる。

## ●くわせエサ 魚信1分包+水80~100cc 魚信1分包+彩1分包 +水220cc

サワリが強くて、下のハリスが張りにくいためにアタリがでなければ重さがある「魚信」単品を、くわせエサの落下速度を遅くして、へら鮒に追わせるのがいい場合には「特選わらび彩」をブレンドしたものがいい。僅かな重さの違いなので、釣りながら使い分けてアタリの多いほうを選べばよいだろう。



竿の長さは、8~9尺で棧橋手前に着いたへら鮒を狙うか、12~13尺で深いタナを攻めるのだが、つまづかないためにも事前情報は確認しておこう。ウキのオモリ負荷はサワリの出方に大きく影響する。渋り気味のときは小さめがいいが、釣り場によっては大きなウキでタナまで一気に沈める釣り方がいい場合も。ここは釣りのクセもあるのでサワリの様子で使い分けることが大切だ。

## ●オモリ 実寸大 0.25mm厚板オモリ

17mm×20mm

17mm×30mm

# ● 活性が低いときに有効なバラケブレンド 粒戦100cc+ダンゴの底釣り夏150cc+水150cc+新B200cc+パワーX100cc+セット専用バラケ100cc



## ● 作り方

「粒戦」と「ダンゴの底釣り夏」に水を入れ、「粒戦」に水が浸透するまでしばらく放置する。水が浸透したところへ「新B」、「パワーX」、「セット専用バラケ」を入れ、指を熊手状にしてよくかき混ぜる。決して練らずにエアーを含んだボソで仕上げる。

## ● 特徴

ボソッ気があり、集魚性のあるエサを重さのある「ダンゴの底釣り夏」でまとめて、タナまで持っていくイメージになっている。「セット専用バラケ」と「粒戦」が縦にバラける効果を発揮し、上ズリを防いでくれる。

## ● 使い方のコツと手直し

ボソッ気を残しながら使うのが基本。練り込むとハリ抜けが悪くなるので要注意。ウキがなじみにくいときは小分けにしたバラケに手水を少しずつ加えて、押し練りをして使う。エサに粘りがでたときは手水を加え、「セット専用バラケ」をひとつかみ加えて、全体をサッと混ぜるようにする。

## ● エサの大きさ



## ●低活性時の釣り方

低活性のへら鮎を相手にする釣りなので、上ズリには充分注意が必要。そのためにも、必ずウキは一端ナジませることが大事だ。狙うアタリのほとんどが、バラケが抜けてからのもので、「チクツ」とした小さいものがあるのでウキの動きには集中したい。

また、へら鮎に食い気をそださせるために、ウキをそつと持ち上げる「縦誘い」を多用するが、この場合、誘いをかけた直後にアタリがでることもあるが、ハリスが長いときは、くわせエサが張るまでに時間がかかるので、そのタイミングまで待つことだ。

バラケの大きさは10円玉程度。タナで開くようにウキの動きを見ながら、ハリ付けの際にウキがしっかり

なじむように丁寧に行う。ウキが上がってくるスピードを手水で軟らかさを調整しながら、その日のアタリがでるパターンを探っていくことが肝心で、活性が低いので、より丁寧に探っていく心構えが必要だ。

ウキは低活性のへら鮎の微妙なアタリがでるように、オモリ負荷の少ないものを使う。いわゆる「チャカチヨーチン」と呼ばれる釣りである。

バラケが抜け、くわせだけの状態になってからのアタリに的を絞るので、くわせエサが付いていることが大事。くわせエサだけを付けてみて何節ナジミがでるのかを確かめておくこと。

ハリスは40cmを基本としてはじめ、アタリがなければ長くしていき、アタリが多く、カラツンが多いようなら短くしていく。

■セッティング

竿●8~10尺  
ミチイト●0.6~0.8号

ウキ●羽根寸4.5~6cm  
パイプトップ

ハリス●上0.4号5~10cm、  
下0.2号35~60cm

ハリ●上5号、下3号

冬の釣りでは食い気のあるへら鮎に興味をひかせるために、「誘い」を多用するので、操作性のいい短竿の使用頻度が多くなる。また、繊細な誘いが行える調子の竿を選びたい。

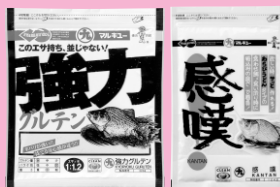
●オモリ 実寸大 0.25mm厚板オモリ

17mm×15mm ~ 17mm×30mm

●くわせエサ  
魚信1分包+  
水85~90cc



強力グルテン5cc+  
感嘆10cc+水20cc  
力玉



くわせエサはハリにしっかりと付いていることが大事なので、「魚信」は少し硬めに仕上げる。同じく「感嘆」についても少し硬めに仕上げる。「魚信」、「感嘆」、「力玉」とその日のへら鮎の活性により、重さの違うくわせエサを使い分けてみることだ。

## ここがポイント① Q&A

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

#### 高活性時

ポイントはサワリの出方。ナジむ途中にサワリがあり、ナジミきってしまうと動きが弱くなるのは上ズリ。バラケを丁寧に丸めてしっかりハリ付けするほか、「粒戦」を加えてへら鮎をタナに落ち着かせるのも一手です。これで効果がなければ竿を1~2尺短いものと交換しよう。逆にナジんでからサワリだけのときはくわせエサが付いているかをチェック。それがOKならば下ハリスを少しずつ長くしながら、くわせエサの大きさや種類をチェンジして状況にマッチしたくわせエサを探ろう。

#### 低活性時

まず、へら鮎がくわせエサの位置よりも

離れていると考えられます。下ハリスの長さを5cmずつ伸ばしていきます。また、くわせエサがウキにはでないへら鮎の動きにもまれて取れてしまっている場合があります。バラケだけの状態になってから、そつと竿を上げてみて、確認をしましょう。それとウキのナジみをしっかりとだしましょう。タナにしっかりとバラケを持っていくように丁寧なエサ付けが必要です。



## ここがポイント② Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

#### 高活性時

トップがしっかりナジんで、毎回鋭いアタリがでてでもハリ掛かりしない場合は下ハリスを短くしてみよう。それでも効果がなければウドンを小さめに切ってハリ付けする。下バリが軽いためにあおられてカラブリになることもあるので、ワンランク上の



ハリか軸が太いものと交換するのもいい。また、バラケの打ちすぎにより、へら鮎がはしゃいでいるところもあるので、バラケをひと回り小さくしっかりハリ付けするのがいい場合も。いずれにしても、いいアタリがでているときはちょっとしたことが原因になっているので、釣り方やエサを大きく変えないでマメに探ることです。

#### 低活性時

カラツンがでるのはハリスが長いと考えられます。下ハリスを少しずつ短くして様子を見るとよいでしょう。また、へら鮎の吸い込む力が弱いので、しっかりとハリ掛かりをさせるために、ハリ先がくわせエサからできるように付けることも大事です。

## ● 両グルテンのブレンドパターン グルテン四季50cc＋ 強力グルテン50cc＋水100cc



### ● 作り方

「グルテン四季」と「強力グルテン」をボウルに入れて粉のうちに良く混ぜる。水を加えたら手を熊手状にしてグルテンが分離しないように素早くかき混ぜエアが入ったように仕上げる。

### ● 特徴

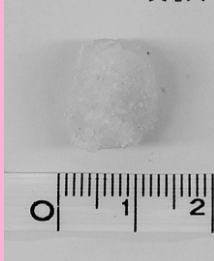
「強力グルテン」はグルテン繊維が強いのでエサ持ちに関して安心感がある。そこに「グルテン四季」の膨らみの良さが加わって寄せながら確実な食い当たりに繋げることができる。魚の寄り具合で配合の比率調整も可能です。

### ● 使い方のコツと手直し

できあがったエサは小分けして、基エサのボソツとしたタッチを殺さないようにしておく。打ち始めは軽く手の甲で押してエアを抜き、エサの表面だけを転がして付ける。エサのナジミ幅はエサの大きさと調整するが、それでもナジミ幅がうまく調整できないときにはさらに押し練りをしてナジミ幅をだしていく。

### ● エサの大きさ

実寸大





# ●グルダングのブレンドパターン

## ペレ道150cc+BBフラッシュ50cc+ 強力グルテン50cc+水150cc



### ●作り方

「ペレ道」と「BBフラッシュ」と「強力グルテン」をボウルに入れて粉のうちに良く混ぜて水を加えたら手を熊手状にして素早くかき混ぜる。3分ほど放置し水が十分に浸透したらできあがり。

### ●特徴

集魚力のある「ペレ道」で底に魚を集め「強力グルテン」の芯残りの良さで食い当たりに繋げることができる。また、「BBフラッシュ」を入れることにより適度な粘りができるのでナジミ幅を調整しやすくなる。

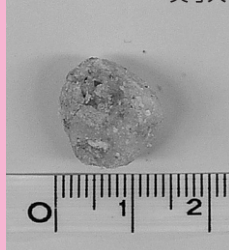
### ●使い方のコツと手直し

できあがったエサは小分けして基エサのタッチを殺さないようにしてつける。このエサは重さもあるので早いアタリを狙っていても上ズリにくく、タナを安定させられる。注意点は、エサを軟らかくしすぎないことと、練りこみ過ぎないようにすること。



### ●エサの大きさ

実寸大



## ●バラケルセットのバラケブレンド

# ダンゴの底釣り夏100cc＋ペレ道 100cc＋粒戦細粒30cc＋水100cc



### ●作り方

粉のうちに良く混ぜて水を加えたら手を熊手状にして素早くかき混ぜる。3分ほど放置したらもう一度エサを軽くかき混ぜエサにエアを入れるようにしてできあがり。

### ●特徴

「ペレ道」と「ダンゴの底釣り夏」がベースなので、重さがあり底までしっかり持つエサなので上ズりにくい。また「粒戦細粒」を入れることでエサ切れがよくなり、より一層、底にへら鮎を落ち着かせて釣っていくことができる。

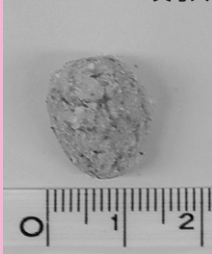
### ●使い方のコツと手直し

できあがったエサは小分けして、基エサのタッチを殺さないようにしておく。最初からバラけさせるとエサの調整が難しくなるので打ち始めは手の甲でエアを抜きナジミ幅をしっかり取る。そこから徐々に基エサを足しタナで開かせるようにする。アタリが出始めたら手もみやエサの大きさとナジミ幅を調整する。このとき、ウキの戻りを重視すること。ウキの動きが少ないようなら軽く水で戻し「バラケマッハ」を追い足すとよい。



### ●エサの大きさ

実寸大



# ●バラグルセットのくわせエサ 強力グルテン50cc+水60cc



## ●作り方

「強力グルテン」に水を加え、全体に水分がいきわたるように素早く混ぜる。そのまま3分ほど放置したらできあがり。

## ●特徴

グルテン繊維が非常に強くエサ持ちが良いので、エサを軟らかくしてもハリからエサが抜けることがなく、安心してくわせエサとして使える。

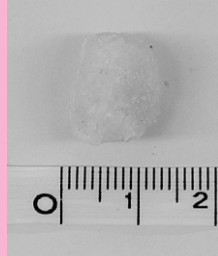
## ●使い方のコツと手直し

魚の食いの状態でエサの大きさを決める。食いが悪いようなときはハリを小さくしてエサも小さくつける。それでも食いが悪いときは手水を打ち徐々に軟らかくしてみる。さらに洗ひようなときは軽い「わたグル」を使ってみる。



## ●エサの大きさ

実寸大



## ■セッティング

両グル&グルダンゴ  
竿●13~18尺  
ミチイト●0.8号  
バラグルセット  
竿●16~24尺  
ミチイト●0.8号

両グル&グルダンゴ  
ウキ●羽根寸11~15cm  
パイブトップ  
バラグルセット  
ウキ●羽根寸12~16cm  
パイブトップ

両グル&グルダンゴ  
ハリス●0.3~0.4号  
上40cm、下47~50cm  
バラグルセット  
ハリス●0.3~0.4号  
上40cm、下45~50cm

両グル&グルダンゴ  
ハリ●上下5号  
バラグルセット  
ハリ●上5号、下3~4号

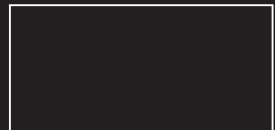
底釣りなのでウキはアタリのでる範囲の大きめなものを使う。アタリの取り方もナジませて戻してからのアタリが基本なのでパイブトップが釣りやすい。エサ落ち目盛りも復元力を考えトップを2~3目盛り沈めたぐらいがよいだろう。へら鮒の活性によってムクトップがよいときもあるので試してみることも必要です。ミチイトは沈みがよく伸びの少ないものを選びたい。ハリは食わせ重視のためあまり大きなものは使わない。4~5号を標準とする。ハリスの長さはあまり長くはしないがナジんでサワリが弱いときは5cmぐらいずつハリスを伸ばしてみてもよい。段差に関しては底の状態が悪いところやカケアガリのところでは10cmぐらいまで段差をつけてみる。

## ●オモリ 実寸大



1g +  
締め止めタング  
ステンオモリ1g

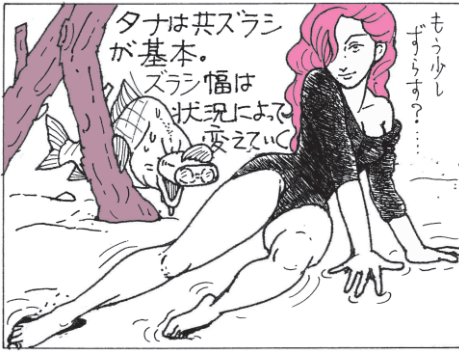
0.25mm厚板オモリ  
17mm×20~35mm



## ●釣り方のコツ

底釣りは、言葉どおりエサがキツチリと底についていなければいけません。共ズラシを基本とした正確なタナ取りが必要で、タナ取りゴムを使用してエサを打ち込む周辺を丹念に探って底の状態を把握しておき、流れがついた場合でも対処ができるようにしておこう。

また、釣れ始まったらタ



ナが掘れて深くなっていないかをいま一度確認する。特に冬の底釣りはその数センチのタナの違いで食いアタリがでないことがある。ヘド口の多いところなどでは1日に何回もタナを取り直すことさえある。ウキのナジミ幅やアタリの出方がおかしいと感じたらエサ落ち目盛りやタナの確認をするように心掛けたい。

### ■両グルテンの釣り方

この時期の両グルテンの底釣りは新べらやオダ周りの居つきのへら鮒がメインとなります。特に放流直後の新べらは活性が高いので食わせ重視のこのような釣り方が効果的です。タナは共ズラシを基本とし、ナジんだウキが戻してからのアタリを取るとヒット率が高い。底の状態でハリスの段差は変えませんがアタリの多いときなどは段差を5cm以

内につめてややずらし幅(3〜7cm)を取り、エサの表面を良く転がしてつけるとアタリもタナも安定してきます。

両グルテンで釣っているカラツンやウキの戻りが悪くなるともっと魚を寄せようとバケラを打ちたくなるが、かえってこういったときにバラケを打つとアタリがボケる可能性のほうが高い。このようなときはグルテンを作り直すことをお勧めします。

### ■グルダンゴの釣り方

水温が下がりがきつていない時期や、魚の活性が高く両グルテンでは釣りづらいときに効果的です。また、ジャミアタリが多いときにも有効。タナは共ズラシが基本ですが、落ち込みアタリで釣れるようなら片ずらしにしてムクトップを使い、早いアタリを取って釣果を

伸ばすことも可能。ただし、上ズリには注意し、ナジミ幅を手もみやエサの大きさを調整することが必要です。

### ■バラグルの釣り方

新べらなど活性があつたへら鮒でも何度も釣られたり厳寒期が近づいてくると動きが鈍くなったりする。このようなときにバラグルの出番となる。打ち始めは片ずらし気味にしてナジミ方とバラケ具合を確認しながら打っていく。サワリがでてきてアタリがでるようになったらバラケをしめてタナを共ズラシにしてバラケを底に落ち着かせタナを安定させる。ウキの戻りを重視してアタリのであるパターンを絞っていく。ウキはしもりにも強く戻りもよいパイプトップを使うのが無難ですが、サワリがあるのに食いアタリが小さい場合はムクトップが有効です。

## ここがポイント① Q&A

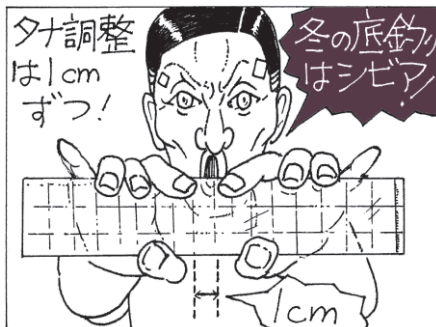
### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

まず、タナとウキのバランスが間違っていないかを確認します。小さすぎるウキでは、へら鮒が落下中から反応してしまいますので、どちらかといえば大きめのウキを選んでください。

その次に、ナジんだウキがサワリながら戻ってきてても食いアタリがでないときはバラケ過ぎが考えられます。エサを手もみして小さくつけるかエサの表面を転がしてバラケ性を押さえてつけてみましょう。

それでも食いアタリがでないときはタナをずらし過ぎていて食いアタリがでづらくなっている可能性があります。この場合はタナを1cmずつ浅くして食いアタリのでるタナを探していきます。逆にサワリはあるがウキの戻りが悪くアタリがでないときは

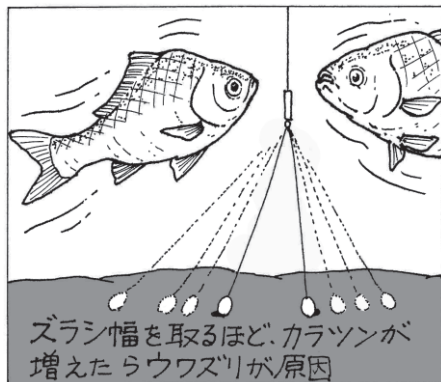
タナを1cmずつ深くしていきます。そうするとエサも底に安定してウキの戻りもよくなり食いアタリがでやすくなります。このようなときはウキをムックトップに変えるのも効果があります。



## ここがポイント② Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

この場合も、ポイント①と同様にまずタナとウキのバランスをチェックしましょう。ウキの大きさを変えることで、状況が



一変することは意外とあるものです。

次に考えられる原因はエサが大き過ぎるかエサの持ち過ぎがあります。このようなときは手もみをして小さくつけるか軽く手水をつけて押し練りをして軟らかくし吸い込みの良いエサにしてみます。さらにタナを1cmずつずらしいき底にエサを安定させることによりヒット率のよいタナを探ってみること。

ここで注意することはタナのズラシ幅を取ればとるほど、カラツンが増えるときは上ズリが原因です。このようなときはエサの配合をさらにエサ持ちのよいものに変えてみるとか重さのあるものを加えることでナジミを安定させアタリ返しを取っていきとよいでしょう。



# グルテンエサの長ザオ沖打ち

(タナ1~2mの宙釣り)

## ● 両グルテンのブレンドパターン

新べらグルテン200cc +  
グルテン四季50cc + 水200cc



### ● 作り方

「新べらグルテン」と「グルテン四季」をさっと混ぜ、そこに水を注ぎ全体をかき混ぜて水を行きわたらせる。そのまま放置して(約5~6分)、グルテンの表面が固まってきたら指を熊手状にして大きく数回かき混ぜエアーを含ませる。

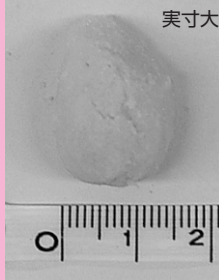
### ● 特徴

「新べらグルテン」はフレークが大きく、バラケ性にも優れ軽いグルテンに仕上がる。「グルテン四季」はボソッ気がでる特性があり、タナで大きく膨らむ。後はエアーの抜き方しだいで重さ調整が可能だ。

### ● 使い方のコツと手直し

エサの打ち始めはバラケ性を優先して、ボソのまま使用する。ウキが動き始めてからはエサ抜けを防ぐために、ややエアーを抜いて待たせるようにする。ここで釣れてこないときにはさらにエサ持ちを良くして、しっかりとなじむようにする。反対にボソのグルテンに反応しないときには、手水を打ちながらしっとりタッチにしていく。この場合、エサのサイズは少し小さくすること。

### ● エサの大きさ



# ●バラグルセットのバラケブレンド プログラム600cc+段差バラケ 200cc+セット専用バラケ200cc+ 水200cc



## ●作り方

「プログラム」、「段差バラケ」、「セット専用バラケ」を粉のうちに混ぜ合わせて水を入れる。全体に水が行きわたるようによくかき混ぜて5～6分放置する。エサが水を吸収したら再度かき混ぜてエサにエアーを含ませる。

## ●特徴

「プログラム」がベースなのでまとまりの良いエサに仕上がる。「段差バラケ」は集魚性に優れタナに寄せるパワーがある。「セット専用バラケ」はタナでエサをバラケさせることができ、均一にエサを開かせる。ボソッ気のあるエサだがエサ持ちは良く、タナに寄せることができる。

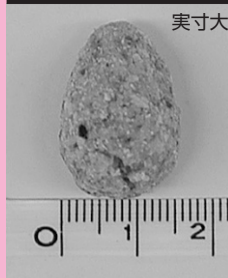


## ●使い方のコツと手直し

小分けにしたエサのエアーを抜きながらややボンで打ち始める。ボンタッチでサワリ過ぎるときには手水を打ちながらしっとり系にしていくが、「セット専用バラケ」の特性でネバリをだしても開くバラケになる。逆によりボンにしたいときには「バラケマッハ」を足して硬めにする。



## ●エサの大きさ



# ●バラグルセットのくわせエサ 強力グルテン50cc+水50cc



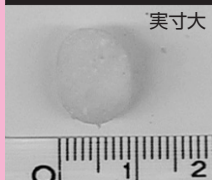
## ●作り方

「強力グルテン」に水を入れて30回ほどかき混ぜる。そのまま放置して完全に固まったらひっくり返して使用する。グルテン量の多いエサなので水を入れてからしっかりと混ぜ合わせるのがポイント。

## ●特徴

できあがったグルテンは繊維が強いので、押しネリを数回加えるだけで重さがつき、エサ持ちも抜群なので、単品で使えるくわせエサとして十分に効果を発揮する。

## ●エサの大きさ



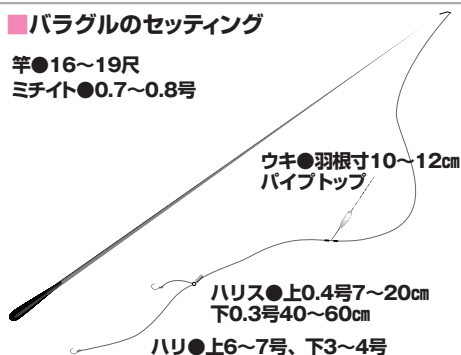
## ●使い方のコツと手直し

軽めに使用する場合には端から摘むようにして軽くハリ付けする。タナで膨らませたほうが良いときには「グルテン四季」または「新べらグルテン底」を20cc加えて水70ccで仕上げる。また、これからの乾燥時には「ポンプ出し」で使用方法も良い。



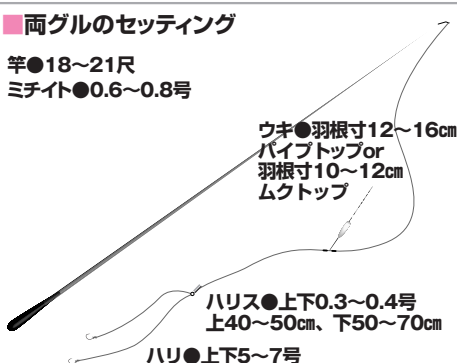
## ■バラグルのセッティング

竿●16～19尺  
ミチイト●0.7～0.8号



## ■両グルのセッティング

竿●18～21尺  
ミチイト●0.6～0.8号



## ●オモリ 実寸大

0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×18～22mm

バラケエサをしっかりと支えるパイブトツプと、下ハリスの寸法が注意。バラケエサを早くタナに入れて、ゆっくりとグルテンを落下させる場合は上ハリスを7～8cmにして、下ハリスは60cm位まで伸ばすとグルテンエサの落ち込み時に反応することがある。

## ●オモリ 実寸大

0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×22～30mm

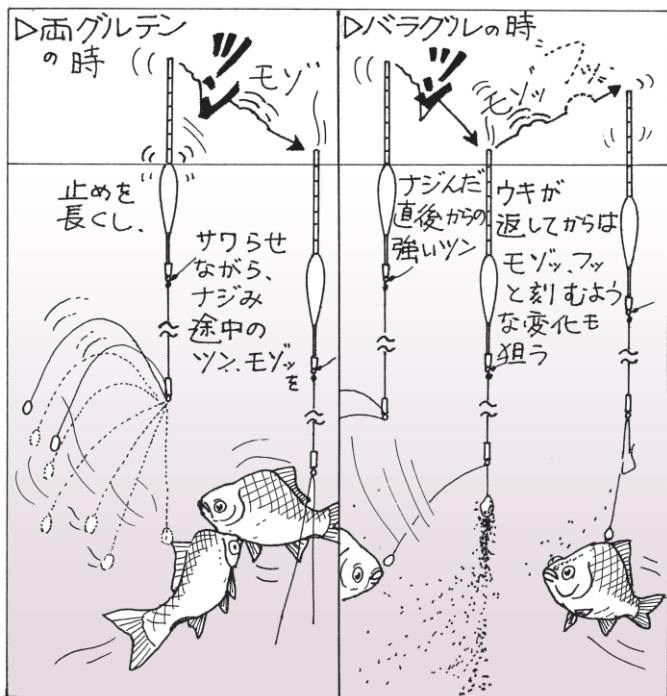
一番注意するのはハリスの長さとおまりの選択。サワリが少ないときにはハリスを50cmと70cmくらいに長くするのが正解のときもある。ハリはエサのサイズとの関係もあるが大きめでセッティングしたほうが良い。

# ●釣り方のコツ

## ■両グルテンの釣り方

基本的な考えは、上層からサワらせながらナジみ途中の「ツン」「モゾ」を狙っていく。そのために長めのハリスを使用して、ウキが

立った直後の「止め」を長くし、そこからゆっくりとグルテンを落下させていく。このパターンで食い込まないときには上エサのグルテンはそのまま、下エサのグルテンだけ押し練りを数回加えてバラケ性を弱め、



両グルテンをセット感覚で釣っていくといいだろう。

## ■バラケルの釣り方

しっかり持ち気味のバラケエサをタナに入れ、ジワジワ抜きながら釣っていくイメージ。バラケエサとくわせのグルテンをゆっくり同時にタナに入れるときにはハリス段差はあまりつけない。なじませた直後からの強い「ツン」アタリを基本にして、ウキが返されてからは「モゾツ」「フツ」と刻むような変化も狙っていくのが釣果を伸ばすコツだ。

## ■両グルテンとバラケルの使い分け

沖めに居着いている新べらをターゲットにする場合、スタート時は両グルテンでウキの動きを見る。寄りの量が少ないときにはじめてバラケルのセットに変えていくが、その前に「タナを探る」ことも重要にな

る。新べらのタナは水温や混雑度で異なるため、1〜3mを探ることでヒットポイントも見つかることが多い。

ウキは高活性時には浮力のあるタイプを、サワリが少ない場合には軽いものを使用していく。ハリは食い渋り時は小さいものを使用するのがセオリーだが、へら鮎の大型化で水中での煽りも強いいため、両グルテンでは6〜7号をベースにする目安だ。

ハリスワークで効果的なのは0・3号位の細めのラインで抵抗を少なくして食わせていく。バラケルでは、下ハリスの寸法に変化をつけることで反応が大きく変わることも多い。使用するグルテンの特性でも異なり、硬めの小さいグルテンではハリスは長くすると効果的になる。

## ここがポイント1 Q&A

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

#### 両グルテン時

サワリがあって食いアタリがでないときはグルテンエサの持ちが悪いことが考えられます。この場合、使っているグルテンに



押し練りを加えてアアーを抜き、ハリ抜けないようにします。また、ハリが小さいことで持ちが悪くなっていることもあるので、ハリを大きくするのも手です。また、エサをラフ付けにせず、丁寧に丸く付けることでエサ持ちが良くなります。

また、小さいくわせエサだと食いアタリがでないときもあるので、少しずつくわせエサを大きくすることも試したい。

#### バラグルテン

考え方は両グルテン同様で、くわせエサのエサ持ちが悪いとサワリだけで食いアタリがでないことが多いです。エサのサイズを大きくすることはできないので、グルテンを硬めにし小さくハリ付けしましょう。

## ここがポイント2 Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

#### 両グルテン時

ハリスが長い、エサが硬い、エサの持ち過ぎ、タナが違うなどが考えられます。ハリスが長いときには糸ズレになるケースが多く、エサが硬い・持ち過ぎの場合もほぼ同様のケースで、吸い込みにくさが原因になっています。エサを柔らかくするか、サイズを小さくすることである程度は解消されます。

#### バラグルテン

エサの過剰な持ち過ぎで、特にバラケエサの持ち過ぎによるカラツンは多いものです。同様にくわせエサの持ち過ぎもカラツンになり、どちらの場合もエサをやや開かず方向にします。バラケエサは手水を打っ

て「セット専用バラケ」などを差し込み、グルテンエサの場合はタッチを軟らかい方向にし、サイズも小さくしていきます。





# 段差の底釣り

## ● 活性が高いときに有効なバラケブレンド 粒戦100cc＋水200cc＋段底400 cc＋セット専用バラケ200cc＋バラ ケマツハ200cc



### ● 作り方

「粒戦」に水を入れて5～6分放置する（※厳寒期は水温も低下し「粒戦」が水になじむまでの時間がかかるので、全体にトロトロ状態になるまで放置する）。そこへ「段底」、「セット専用バラケ」、「バラケマツハ」を入れボソ気味に仕上げる。

### ● 特徴

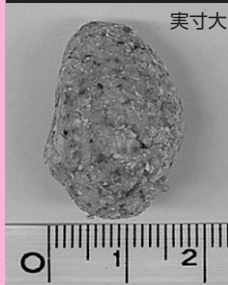
「粒戦」は上ズリ傾向にある宙層のへら鮎を下に向かせる。「段底」はベースになるエサで縦にへら鮎を寄せ、「セット専用バラケ」と「バラケマツハ」がバラケ性を促進させている。

### ● 使い方のコツと手直し

できあがったエサを半分位に小分けにして使用する。はじめはややラフにハリ付けてナジミ幅を調整する。ここでナジミ幅が4～5目盛りとれないときや水深がありエサ持ちが悪いときには「底バラ」100ccを差し込み、カタボソに手直してナジミ幅の調整をする。反対にウキの返しが悪いときには「セット専用バラケ」を振りかけて開きを促進させる。



### ● エサの大きさ



## ●高活性時の釣り方

ウキをしつかりナジませることが肝心で、いきなり上ずらせることがないよう  
に注意する。そのためには  
バラケエサをしつかりとハ  
リ付けして4〜5目盛りの  
ナジミ幅を常にキープし、  
その日の状況が分かるまで  
はバラケエサが抜けてから  
のアタリに絞り込む。

バラケエサが完全に抜け、  
くわせエサだけになると  
(底に付いている状態)、ウ  
キの目盛は宙で決めたエサ  
落ち目盛より多くするが、  
この位置でアタリができれば  
ヒット率も極めて高い。俗  
に言う「勝負目盛り」がで  
た位置でのアタリで、段差  
の底釣り特有のアタリの取  
り方になる。

バラケエサは単にへら鮎  
を寄せるというただけで  
はなく、宙層にいるへら鮎

を下に向かせながら寄せる  
ことをイメージする。その  
ためブレンドするエサは、  
横に広がるものでなく縦方  
向のバラケとなり、タッチ  
もヤワ系よりもボンでタナ  
を凝縮していくほうが良い。  
ただし、バラケエサのタッ  
チは日並みによっても異な  
り、時にはヤワネバでしっ  
かりとナジませて釣ること  
が正解になることもある。

食い渋り時にはシビアな  
アタリのであるムクトップ、  
好活性でウキの動きを抑え  
て釣るときにはパイプトッ  
プが使いやすい。ハリスワ  
ークは上を15〜20cmで固定  
しても良いが、下は活性に  
応じて変える必要がある。  
食いが良いときは上15cm、  
下45cmくらいで良く、逆に  
食い渋りで食いアタリがで  
ないときには上10cm、下70  
〜80cmといった大段差も必  
要になることがある。

## ●くわせエサ 魚信1分包+水80〜 100cc



作り方は、レンジで加熱して塊状になっ  
てから30〜40回練り込みコシと弾力を  
つける。ポンプや専用の絞り器に入れて  
冷水に絞りだす。基本的には「魚信」を  
使用するが、水深がある釣り場や、好活  
性でウドンの舞い上がりが心配される場  
合には「わらびどん」を、反対に食い渋  
り時には「力玉」や「感嘆」を使い分ける。

### ■セッティング

竿●10〜18尺  
ミチイト●0.6〜0.8号

ウキ●羽根寸10〜18cm  
パイプトップorムクトップ

ハリス●0.3〜0.4号  
上10〜20cm、下45〜80cm

ハリ●上5〜7号、下2〜3号

竿はチョーテンで底がとれる長さが基本。ミチイトは  
やや張りのあるものやフロロ系が適している。注意す  
ることは、下ハリスがオモリなどに絡むとウキが返し  
てこなくなりシビアなアタリがでなくなるので、仕掛  
けはシンプルにし、ハリスの絡み止めには「絡み止め  
タングステンオモリ」などを使用すると良い。

### ●オモリ 実寸大

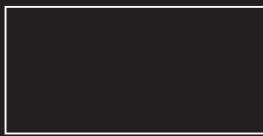
0.25mm厚  
板オモリ  
10mm×17mm



絡み止めタング  
ステンオモリ1g



0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×35mm



# ● 活性が低いときに有効なバラケブレンド

## 粒戦50cc＋粒戦細粒50cc＋へら スイミー100cc＋水200cc＋段底 200cc＋セット専用バラケ200cc＋ 藻べら100cc



### ● 作り方

「粒戦」、「粒戦細粒」、「へらスイミー」をボウルに入れて水を注ぎ十分に吸水させておく。水が浸透したところへ「段底」、「セット専用バラケ」を入れ、指を熊手状にしてかき混ぜる。最後に「藻べら」を全体に絡めるように混ぜてできあがり。

### ● 特徴

「粒戦」、「粒戦細粒」、「へらスイミー」と重さのあるエサを入れ、下方向のバラケで上ズリを防止している。「段底」でエサをまとめ、「セット専用バラケ」でボソッ気をだしたもの。「藻べら」はバラケの水分を調整するのに使用している。

### ● 使い方のコツと手直し

使う分だけを小分けして使う。バラケをくわせエサが底着する位置においてくるようにするために、抜けが良い状態にして粘りがでないようにする。エサ持ちが悪るければ、手水で軟らかくしてから、少しずつ押し練りする。へら鮎が上ズるようであれば、別の容器に「粒戦」に水を吸わせたものを用意してそれを小分けしたバラケに加えて様子を見る。

### ● エサの大きさ



## ●低活性時の釣り方

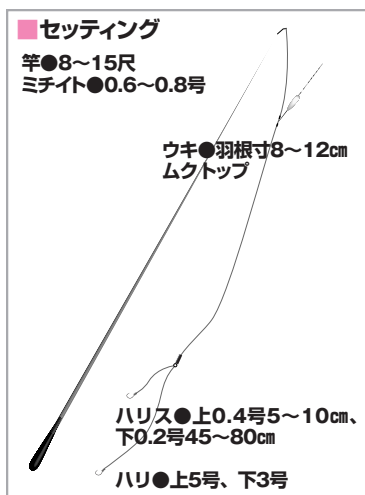
ウキの動きは非常に渋く「待ちの釣り」となるので、一枚、一枚、丁寧に釣っていくことが大切である。基本は上ずらせないようにすることで、しっかりとウキをナジませ、バラケを底に置いてくるようにし、そのたまったバラケの中にあるくわせエサを食わせるイメージで釣っていく。

バラケが抜けてから、エサ落ち目盛り付近のアタリで釣れるのが理想で、下ハリスがしっかりと張りやすい下バリトントンのタナでスタートする。このタナで釣れるのがベストであり、アタリは小さくても鋭いものがでる。

厳寒期では風が吹くことが多く、底にたまったバラケからくわせエサが流されることがある。このような

場合には、くわせエサだけの状態で、そっと竿先を上げて最初のエサ打ちをした位置まで戻してやるとアタリがでる。また、アタリがない場合も竿先を軽く上げて、くわせエサを置き直すことによりアタリがでることもある。ただ、グルテンエサの場合は縦誘いを行なうとハリ抜けしやすいため行なわないこと。

バラケの大きさは500円玉より少し小さめでウキがしっかりとナジむように丁寧に付ける。しかし、ハリにいつまでもバラケが付いていると、バラケにへら鮒が興味を示してしまうので、ナジンでしばらくしたら、バラケが抜けるようにエサ付けの圧や手水などで軟らかさを調整する。ウキのナジミが悪くなりだしたら、水を吸わせた「粒戦」を少しずつ加えていく。



底釣りの場合、底をしっかりと決めておくことが重要なので、底立て目印となるトンボはしっかりとミチイトに止まるようにする。厳寒期の釣りとなるので、アタリは非常に小さい。その微妙なアタリがでるようにウキはムクトップを使う。風でウキが流されるのを防ぐために、チョーテンで底が取れるように水深に合わせた竿を選ぶことが大事だ。

●くわせエサ  
魚信1分包+  
水85~90cc  
力玉大粒  
強力グルテン50cc+  
水60cc

くわせエサはハリ持ちよく、底にしっかりと着くイメージがほしいので、基本は重さのある「魚信」を使う。ただ、へら鮒が飽きることもあるのでアタリが途切れたときなどに「力玉大粒」を付けてみるのもよい。また、へら鮒がウドンよりグルテンに反応する場合もあるので、グルテンエサも用意する。ハリ持ちがいい「強力グルテン」が最適。この場合には「フツ」としたアタリになるので、ウキの動きに注意すること。

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ  
17mm×20~40mm

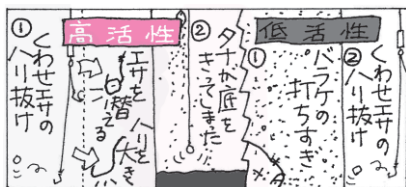
## ここがポイント① Q&A

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

#### 高活性時

まず、一番に考えられるのがくわせエサのハリ抜けです。へら鮎の煽りでウドンが抜けてしまう場合、サワリはできますが食いアタリがでないケースが多くなります。この場合にはくわせエサを変えて必ずハリ残りさせること。ハリをワンランク大きくさせる方法もありますが、吸い込みが悪くなるデメリットもあるので要注意です。

次に考えられるのがタナで、水流などの



影響で下バリが底を切っていることもあります。この場合、バラケが抜けてもエサ落ち目盛りまでウキが返してこないで、タナを1cmずつ深くして、必ずエサ落ち目盛りがでるように調整します。

#### 低活性時

ひとつは、バラケの打ちすぎが考えられます。しっかりとウキをナジませて、その日のへら鮎の活性（食ってくるサイクル）をつかむことも大切で、あせらず確実に釣っていくようにする。もうひとつは、くわせエサが抜けてしまっている場合です。気になるときは、そっと竿を上げてきてくわせエサが付いてくるかどうかを確認してください。

## ここがポイント② Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

#### 高活性時

アタリがあってヒットしないときには、タナの微調整が必要になります。まず1cmずつタナを深くしてヒット率の上がるタナを探していきます。次にくわせエサのサイズが大き過ぎているかをチェックします。くわせエサのサイズを変えることでヒットにつながることも多いです。また、くわせエサが安定していないときもあり、そんなときはハリを重くしてくわせエサを安定させると釣れることも多いです。

#### 低活性時

まず、くわせエサが取れてしまっている場合がありますので確認を行ってください。また、くわせエサがウドンのときはし

っかりとハリ先をだすように付けて、ハリ掛かりをさせます。次に、へら鮎がバラケに興味を持ちすぎている場合があります。バラケが付いているときにアワせるとバラけた麩が水中で舞ってしまいますので、へら鮎が底に向いてくれません。丁寧なエサ付けとしっかりとウキをナジませることを心掛けてください。



それと、いつまでもバラケがハリについていることも注意です。中層にあるバラケにへら鮎が興味を示してしまうので、バラケの抜け具合にも気をくばりましょう。



# グルテンセットのチョーチン釣り

- 活性が高いときに有効なバラケブレンド  
プログラム800cc + BBフラッシュ  
200cc + 水250cc + スーパーダンゴ  
200cc



## ● 作り方

「プログラム」と「BBフラッシュ」に水を加え、軽く練り込むように30回ほど混ぜて芯をつくる。そこに「スーパーダンゴ」を加え、ほぐすように全体を20回ほど混ぜてできあがり。18尺以上の深いタナを釣るときは水を入れて混ぜるときにやや強く練り込むのがコツ。

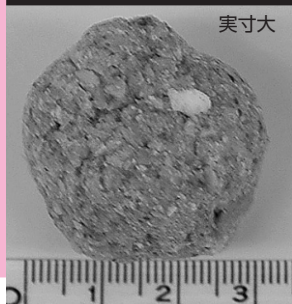
## ● 特徴

まとまりがいい「プログラム」をベースに、タナで開く「スーパーダンゴ」をブレンドしたバラケ。タナに届いてから膨らむようにバラけるのでタナが安定し、寄せ効果が持続。カタボソからしっとりタッチまで、釣況に即応できる利点もあり、手揉み加減で超深場の釣りにも対応できる。

## ● 使い方のコツと手直し

バラケにグルテンの釣りは野釣りが中心。秋からへら鮎のタナが深くなるので、エサの芯をつけたボソタッチが基エサとなる。これを3分の1に小分けし、タナが深いときはつまんだエサを指先で転がす回数を増やして持ち具合を調節する。粘りがでたときは粉を足すと開きが早くなるので、残ったエサと同量の基エサを加えてバラケ性を補う。

## ● エサの大きさ



# ●くわせエサ 強力グルテン50cc+水60cc



## ●作り方

ボウルに「強力グルテン」50ccを入れ、水60ccを加えたら指先で20回ほどかき混ぜる。3分放置して全体が固まったら下から掘り起こすようにしてエアを絡め、ボウルの隅に寄せる。

## ●特徴

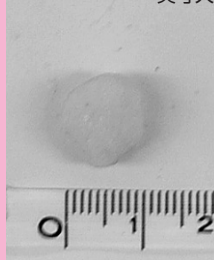
グルテン繊維が非常に強いので、超長ザオの深いタナでも安心して待てる。粘り気がある仕上がりで、渋いときには「一発」感覚の小エサで誘いながらの釣りにも対応できる。

## ●使い方のコツと手直し

標準水量で仕上げた基エサを端からつまんでパチンコ玉大にエサ付け。軟らかいタッチがいいときは半分に分けた基エサの上から手水を数滴垂らし、押し練りを数回加え、ひと回り大きく付ける。反対に硬めがいいときは1対1でつくったものを大豆粒の大きさで、ハリに刺すようにエサ付けする。

## ●エサの大きさ

実寸大



## ■セッティング

竿●13~24尺  
ミチイト●0.8号



秋から冬にかけてへら鮒のタナは目まぐるしく変化する。これに対応するには確実な事前情報を基に竿(タナ)の選定をすることだ。特に水深があるダム湖では天候などが原因で、タナが一気に3m以上も変わることがあるので要注意。ハリスの長さはサワリが一番でやすいセッティングでスタートしたい。それには下のハリスを70~80cmの長いものが有効。新べら放流シーズンでもあり、溜まっている場所に当たるとエサが激しく揉まれる。下バリは食わせ重視よりエサのハリ持ちを良くするため4~5号が安心だ。

## ●オモリ 実寸大

0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×30mm



絡み止めタングステン  
オモリ1g+0.25mm厚板  
オモリ17mm×30mm

## ●釣り方のコツ

基本的なウキの動きとしては、ナジミ幅は5〜6目盛りほどしっかりナジませる。落ち込みでサワリがでて、ナジんだ瞬間からひと呼吸おいてツンとアタるのが理想的な動き。タナが深くなるとバラケのエサ持ちが弱くなるので、指圧を調整してしっかりエサ付けしてタナにへら鮒を集魚しよう。

ナジミ幅が少ないときは、大きくエサ付けしてナジミ幅をキープするようにし、ナジんでからポロポロとバラけ、トップがゆっくり戻るように練り加減を調節したい。へら鮒が寄るまでは角ばらせてエサ付けし、サワリが続くようになったところで丁寧にくくエサ付けするとよい。

グルテンはパチンコ玉大



から様子をみていき、食いに応じて大きさを調節。渋い場合には硬めに仕上げたものを大豆粒大に付けるとはつきりしたアタリがでやすくなる。

深くナジんで戻りが遅いときやアタリが少ない場合は、使っているエサに手水を一回打ち、「スパーダンゴ」ひと握りを加えてバラケ性を促進する。

バラケをタナまでしっかり持たせるのがチョーチン釣りの基本。上バリは大きいものが釣りやすい。例えば13尺いっぱいなら7号、18尺以上の深いタナを攻めるときは8号グラスがいい。ハリスは上を0・5号、下を0・4号というように号数を変えると絡み防止になります。

秋から初冬にかけてへら鮒のタナは日並みだけでなく時間帯によっても変化す

る。いきなりアタリが切れてナジむ途中のサワリだけになることも。こんなときはムリをしないで短い竿に交換して上のタナを攻めよう。反対にダム湖では「下ズリ」になることもある。サワリすら切れてへら鮒の気配が感じられないときは、思い切って長ザオで深いタナを狙ってみたい。

また、この時期は新べら放流のシーズンなので群れに当たると爆釣のチャンス。ボソッぽいバラケはウキが踊るだけで繊細なアタリが読みにくくなる。バラケをしつとりタッチに手直しして、グルテンだけでなくバラケも食ってくるような釣り方をすると枚数が伸びる。野釣りでは時合に対して下のハリスをマメに交換することが要求されるのでスパーは充分に持参したい。

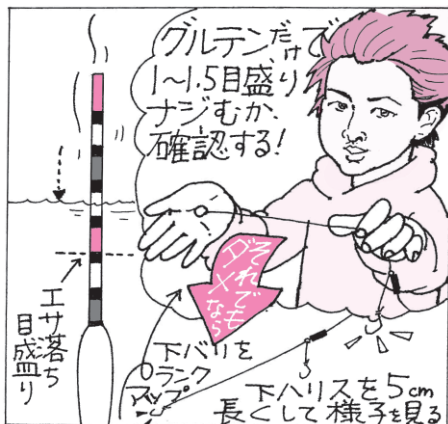
## ここがポイント① Q&A

### サワリがあるのに食いアタリがでないとき

バラケとグルテンのセットでは、バラケが大きくて重たいため、ナジミ幅はしっかりです。サワリしかでないのはグルテンがハリ抜けしていることがあります。こんなときは下バリにグルテンだけを付けて、ナジミ幅がパイプトップなら1~1.5目盛りであることを確認します。もしでないようならしっかり丸めてハリ付けするか、水量を少なくして硬めに作り変えます。

これをクリアしてもサワリだけでアタリがなければ下ハリスの長さに問題があります。短すぎて時合にマッチしていないことが考えられるので5cm長くして様子を見ます。さらに寄りがいいときはくわせのグルテンがもまれてハリスが張らないことも

あるので、下バリをサイズアップするとはっきりしたアタリがでることもあります。



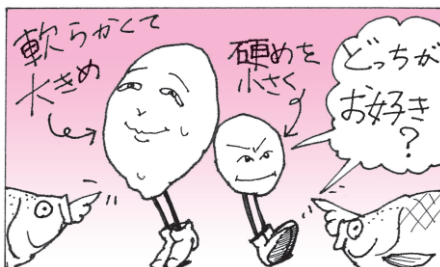
## ここがポイント② Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

落ち込みで空振りするのは、はしゃいでいるへら鮒のイトズレによるものと思われます。バラケの開きすぎ、早いアタリで空振りを続けていたのが原因と考えられます。こんなときはへら鮒を落ち着かせるため、バラケを丁寧に付けてトップをしっかりなじませます。ここで空振りするのはく

わせのグルテンが付いていないこともあるので、グルテンだけのナジミ幅を確認します。これが良ければグルテンを小分けしたものの上から手水を垂らし、数回押し練りして軟らかく調整します。軟らかくなった分、抜けが良くなるので、今までよりひと回り大きくエサ付けします。

これで効果がなければ、下のハリスがへら鮒によってもまれて糸ズレアタリになっていることもあるので、5cmずつ短くしてみましよう。野釣りでは大型の地べらと小ぶりの放流べらが一緒に寄ったときもカラツンが多くなります。このときも軟らかい大きめのグルテンがいいか、硬めを小さく付けるとヒット率がいいかを打ち分けて様子を見てください。



# へらエサ裏ワザ小ワザ

● **さなぎ玉** 「力玉」を「さなぎ粉」で漬けてむことで、エサが抜けにくく、また、集魚の効果も期待できるくわせエサになる。

## ● 作り方

「力玉」の水分をとるため、キッチンペーパー（以下ペーパー）に「力玉」を重ねないように広げて上からもペーパーを被せて軽く押す。ひっくり返して上になったペーパーをはがし（ひっくり返してゆっくりはがすと「力玉」がペーパーに付きにくい）、新しいペーパーを被せて軽く押す。この作業を7〜8回行ない水分を吸収させる。その後、「さなぎ粉」50cc程度を入れたボウルに「力玉」をあけて全体にまぶす。それをビンに詰めなおして数日置けばできあがり。



## ● 使い方

メリットはハリ抜けしにくく、誘いやへら鮎の煽りにも耐えられることと、さなぎのエキスが食いを誘い、食い渋り時に威力を発揮する。大きさが水抜きしたことで小さくなるが、エサ持ちは良く安心して待つ釣りができる。セットの宙釣りははじめ、段差の底釣りでも威力を発揮する。

水抜きの際にあまりやりすぎると水分が抜け過ぎるので7〜8回を目途にある程度水分は残しておく。「軽さなぎ」ではなく普通の「さなぎ粉」を使用すると良い。

## ● グルテンエサのポンプ出し

グルテンエサをポンプに詰めて使うことで、フレッシュさを持続させ、さらに数種類用意することで、状況に合わせた打ち分けができる。

## ● 使い方

グルテンは新鮮なものの程良いとされている。こまめに作り変えることはもちろんだが、どうしても経時変化を起こしてしまう。そこで少しでもフレッシュさをキープするためにポンプに入れて空気に触れにくくし、経時変化を抑えて使うのだ。ただし、ポンプに入れたグルテンでも時間の経過を考えて作り変えることは必要。

グルテンをポンプに入る量で計量し、水を入れると同時にすばやく混ぜ、水が全体にいきわたるようにする。水がいきわたったところで、グルテンの空気を抜く。これはポンプに入りやすいようにするためと、ポンプに入れてからの均一さを保つため。ポンプから適量を押出し、ハリ付けする。この際、手も

みでエサの持ち具合を調整をする。

比率やブレンドの違うものを数種類用意して、打ち分けながら釣っていくことも可能で、カラツンが増えた、サワリが減ったなど、状況に合わせてグルテンを打ち分けていく。この場合、ポンプにマジックなどで印を付けておくとう便利である。



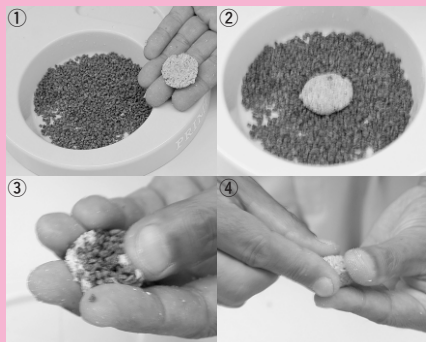


## ●「粒戦」まんじゅう(粒まん) 「粒戦」をバラケエサで包み込み、ピンポイントに強力な集魚をさせる。

### ●使い方

強力にへら鮒を集魚し、タナに落ち着かせる「粒戦」の効果を最大限に活かすため、バラケエサに生の「粒戦」を包み込むエサ使いです。用途としては段差の底釣り、バランスの底釣り、それにドボン釣りにすこぶる効果があります。使い方は、まずそれぞれの釣りに適したバラケエサをつくります。これを丸めてハリに付けるのではなく、いったん手のひらでドラ焼きの皮のように平たく伸ばします。その片面に生の「粒戦」を貼り付けてから、丸く形を整えます。すると「粒戦」はまんじゅうの餡ようになります。これをそのまま上バりに付けます。するとバラケにブレンドしたものより拡散しにくいいため、タナまでバラケに包み込まれた「粒戦」が、周りが溶けると一気に底に拡散。ドサッと底に「粒戦」が落ちるイメージで、ピンポイントに大量のへら鮒を集魚することができるわけです。

す。ただ、へら鮒が寄りすぎることがあるので、アタリが続くようになったら通常のバラケに戻します。



①バラケエサを平たく伸ばす。②「粒戦」を片面に貼り付ける③張り付いた「粒戦」を包むように丸める。④「粒戦」がまんじゅうの餡のようになれば完成。

## ●“ヒゲ”段底 段差の底釣りのくわせエサに「ヒゲトロ」を使う。釣り場や日によってウドンではなくトロ口に好反応するときがあるので、用意しておきたい。

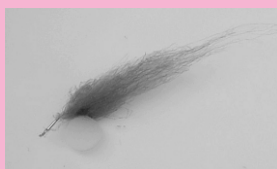
### ●使い方

段差の底釣りが厳寒期だけの釣りではなく、初秋から効果を発揮するようにもなり、固形物ではないトロ口に好反応を示すことから“ヒゲ段底”はスタートした。その後、厳寒期でもエサ慣れしている管理釣り場のへら鮒に有効で、ジャミ対策にもなることから流行ってきた。当初はトロ口をチョン掛けすることで良かったが、へら鮒の煽りでハリ抜けすることがあり、トロ口の滑り止めの意味から「力玉」などを後付けして“テル

テル坊主”のようにするケースもある。はっきりとした違いは明確になっていないが、高活性時には明らかに後者のほうがヒット率は高く安心して待つことができる。

管理釣り場で段差の底釣りが効くポイントならばどこでも通じる。ただし、21尺以上のポイントでは“テルテル坊主”にしてもハリ残りに心配はある。厳寒期の野釣り場でも昨年は効果的だったことから、今季はさらに色々な釣り場で効くと思われる。

万能ではないので、その日の状況に応じてウドン、「ヒゲトロ」、テルテル坊主を打ち比べて、くわせエサのローテーションをしながら使うことが効果的になる。



「ヒゲトロ」を抜けにくくするために「力玉」を後付けした「テルテル坊主」。

切取線 ここからお切りください。開封後は湿らないように[F]を合わせ端から軽くおさえて閉めてください。



マルキュー

天然&食品素材100%

本品は天然の食品素材のみ使用しておりますので、水中で自然に分解されます。

このエサ持ち、並じゃない!

# 喰魚丸

## グルテン



ネバリが強い!!  
待てる安心感が違う!!

KEEP NATURE CLEAN



強カグルテン  
KYORYOKU GURUTEN  
販売番号 2258

# 今度のグルテンは、粘り強い。

丸 マルキュー株式会社 〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。 <http://www.marukyu.com/herabunatengoku/>

釣れるヒント満載!!  
へら鮎天国

